

各 位

会 社 名 **MORESCO**  
(登記社名：株式会社松村石油研究所)  
代 表 者 名 取 締 役 社 長 中 野 正 徳  
( J A S D A Q コ ー ト 5 0 1 8 )  
問 合 せ 先 広 報 室 長 長 尾 光 俊  
電 話 番 号 0 7 8 - 3 0 3 - 9 0 5 8

## MORESCO 中期利益計画について

この度、当社グループ中期利益計画のローリングを実施し、2007年度から2009年度までの3年間を対象とする中期利益計画を策定いたしましたので、その概要についてお知らせいたします。

### 1. 売上高、利益計画（連結）

(単位：百万円)

	2006 年度見込	2007 年度	2008 年度	2009 年度
売上高	12,854	14,470	15,870	17,030
営業利益	789	1,020	1,230	1,540
経常利益	814	1,080	1,320	1,670
当期純利益	474	660	810	1,030
経常利益率	6.3%	7.5%	8.3%	9.8%

注) 2006 年度見込は当中期利益計画発表日現在の業績予想値であります。

### 2. 今次中期利益計画の背景

当社事業を取り巻く経済環境は、国内経済は総じて低水準ながら安定した成長軌道をたどり、中国、東南アジアは引き続き高成長を持続するものと思われます。一方、足許の原油価格は下がったとはいえ高止まりしており、石油化学製品についてはタイトな需給を反映して概ねピーク時の水準のまま推移しています。従って、原料価格は高止まり、一方の製品価格への転嫁は低成長下、引き続き厳しい環境と予測しました。

このような外部環境の下、勢力を結集して既存製品の安定した成長を確保するとともに、新製品開発をよりスピーディーに推進するため、今期より事業部制を導入、また電子材料開発部を設置するなど研究開発体制を再編成いたしました。

自動車産業が好調な中国、東南アジアについては、営業力を一層強化、特にベトナムは新規に代理店を選定し、インドネシアとともに新たな重点先として取り組んでいきます。また、昨年 5 月に現地法人を設立した米国では、日系メーカー数社で当社品の評価が始まっており、今年度後半からの採用を目指しています。

### 3. 部門別売上高の計画（連結）

（単位：百万円）

	2006年度見込	2007年度	2008年度	2009年度
化学品事業	12,792	14,410	15,810	16,970
特殊潤滑油部門	(4,559)	(5,050)	(5,660)	(6,090)
合成潤滑油部門	(987)	(1,140)	(1,350)	(1,570)
素材部門	(3,215)	(3,500)	(3,770)	(4,080)
ホットメツ接着剤部門	(2,596)	(2,940)	(3,050)	(3,000)
その他	(1,436)	(1,780)	(1,980)	(2,230)
賃貸ビル事業	62	60	60	60
合計	12,854	14,470	15,870	17,030

注) 2006年度見込は当中期利益計画発表日現在の売上高予想値であります。

### 4. 部門別事業戦略

#### 4.1 特殊潤滑油部門

当部門の最大顧客である自動車産業においては、燃費に勝る日本車の海外での生産が引き続き大きく伸びていくと見込まれており、当社としては、前述のように海外での販売網拡充に積極的に取り組んでまいります。従って、当部門の売上げ増は、ますます海外の市場に負うところが大きくなると予想されます。

一方、国内における自動車生産は高水準ながらほぼ横這いで推移すると予想され、その結果当社が極めて高いシェアを持っている難燃性作動液の国内での伸びには限界があると認めざるを得ません。従って、当部門の伸びは、未だマイナーシェアであるダイカスト離型剤と切削油の製品開発力にかかっているといたします。環境にやさしい製品を目指して数年かけて取り組んできた新製品がユーザーから高評価を得つつあり、今後の拡販に当部門社員の総力をあげて取り組んでまいります。

#### 4.2 合成潤滑油部門

当部門の主力製品である高温用合成潤滑油は、自動車電装部品向けの高温度用軸受けグリースの原料として世界的に不可欠な製品に育っています。2006年度は、たまたま主力ユーザー2社が工場移転のためグリースの製造を休止し製品備蓄取り崩しで対応した期間が長かったことから、売上げは大きく落ち込みましたが、今年度は通常のベースに復調する見込みであります。また、適応温度領域拡大の新製品開発や新たな用途開発で増販を狙っています。

一方、ハドディスク表面潤滑剤は、現在3.5インチメディアの約85%で採用されるに至っております。将来的に大きく拡大すると見込まれている2.5インチ以下の小型ディスクでの採用はまだごく一部にとどまっておりますが、次世代モデルに対応できる新潤滑剤の開発については、今年度下期以降の本格採用に向けて、顧客での評価が進んでおります。

#### 4.3 素材部門

流動パラフィン、化粧品、トイレタリー向けやポリスチレン向けは、需要の安定から横這いで推移するものと予測されます。それに対して、急速に成長を続けているリチウムイオン電池膜の生産用途は、携帯電話やデジカメ、パソコン用電池の伸びに連れて、引き続き高い需要が見込まれています。

海外からの流動パラフィンについては、昨年の工場事故の影響は既に回復しているものの、国内ユーザーの調達先見直しの動きもあり、国内トップメーカーとしての安定供給責任がますます高まっています。その責任を果たすためにも、今年度未完了を達成を目途に、生産能力の向上、品質の安定、コスト削減を狙った大掛かりな設備改造を計画しています。

#### 4.4 ホットメルト接着剤部門

主力である大人用紙おむつの用途は堅調な需要が見込まれますが、引き続きおむつ業界の価格競争の影響による収益の低下が懸念されます。これまで取り組んできた高付加価値製品の開発は、ラベル用、建材用、自動車内装用等徐々に成果を生みつつありますが、人材投入によってさらに開発のスピードと質を上げてまいります。

一方、生産面では中国の生産拠点の活用や他社への生産委託によって利益確保に努めていますが、今年は、大幅なコスト低減を目指した抜本的な生産プロセス改善のための設備投資を計画しており、年度内完成を目指します。

### 5. 研究開発の重点

研究開発の重点は引き続き「環境関連分野」と「情報関連分野」に置き、環境にやさしい製品や関連装置、および情報関連機器に必要な電子材料の新製品開発に取り組めます。近年、研究開発のための装置や分析機器への設備投資を積極的に進めてまいりましたが、同時に質量ともに充実しつつある研究開発要員の力を存分に発揮できるように、この程体制変更もいたしました。これら施策により開発のスピードアップや開発レベルの一層の向上が期待されます。

#### 〔環境関連分野〕

##### 特殊潤滑油

難燃性作動液は、機械の腐食防止に配慮しかつメンテナンスが容易な、また廃棄段階では有効成分の再利用等を可能にできる製品開発を目指します。

水溶性の切削油やダイカスト用の潤滑剤は、自動車部品等での利用が加速しているアルミ合金やマグネシウム合金向けを対象に取り組めます。切削油では使用液の入替え回数を減らすことによって廃棄物を大幅に削減できる製品開発を進めます。また、ダイカスト用の潤滑剤は、少量塗布により、ランニングコスト低減が図れると同時に、作業環境改善に役立つ製品の開発を行います。

##### ホットメルト接着剤

これまで環境に問題があるといわれてきた溶剤系接着剤の市場を対象に、安全性

と生産性を向上させるホットメルトの特性を生かした新製品開発を進めます。その一つは、接着温度を調整することにより、完全な接着と再剥離（張り合わせ部を剥がすことができる）という二つの機能を一つの製品で実現できる画期的な製品で、ラベル、情報紙などの用途に展開します。また、耐熱性と低温塗工が要求される自動車関連用途に向けては反応型のホットメルトの開発を進めます。

#### 水浄化装置

工場廃水を炭酸ガスと水に分解でき、廃棄物を出さない促進酸化処理システムは、既に数社で採用いただいております。その実績を重ね用途拡大を図ります。一方、当社が独自で開発した光触媒材料は、クーリングタワーの除菌装置、水耕栽培の病害防止装置等に応用し、市場展開を図ります。

#### 〔情報関連分野〕

パソコンからデジタル家電等への使用が拡大するハードディスクは、高記録容量化に向けて従来の水平から垂直磁気記録方式へと移行しつつあり、新しい潤滑システムに適合する潤滑剤の開発が重要課題となっています。現在、この新方式に最適な潤滑剤を客先評価へと進めております。また、この新方式への移行に伴い要求される高度な機能を備えた、ハードディスクドライブの回転部軸受け油や磁気ヘッド用の表面潤滑剤の開発にも取り組んでおり、こうした周辺用途への進出を図ってまいります。

さらに、ハードディスクや磁気ヘッドは、製作段階で様々な研磨工程があり、研磨スラリーやクーラントが使用されています。これらの用途に対しても、当社はガラス研磨や半導体 CMP スラリー開発の経験を活かし、スラリーやクーラントの開発を進めています。

以 上